

# 文献複写申込依頼書の書き方

資料情報は、主に次の2つの方法で得られます。

- a. インターネット上から
- b. 文献にある引用・参考文献から

大学図書館で所蔵していない資料の場合、図書館を通して他大学から資料を送ってもらうことができます。ただし、情報は正確でないと伝わりません。

では、a, bの情報をどのように伝えたらよいでしょうか。

正しく情報を伝えるには、情報源がどのような規則で書かれてあるかを知らなくてはなりません。その上で、必要な要素を誰にでも分かるよう正確に書き写します。

下図は本大学図書館の様式です。文献依頼に必須の要素は①～⑦です。この中に入れる情報を、インターネット（例はCiNii）と文献を例に番号で示しました。



- ① 誌名・書名
- ② 巻号
- ③ ページ
- ④ 発行年
- ⑤ 著者
- ⑥ 論題
- ⑦ 典拠 (情報源)

文献複写申込依頼書

受付No. \_\_\_\_\_

桐蔭横浜大学 大学情報センター長 殿

下記の通り申込みます。この申込みによる著作権に関する一切の責任は申込者が負います。

		受付日	年 月 日
申込者 氏名		所 属	資格 教授・准教授・講師 助教・助手・( )
e-mail アドレス	@toin.ac.jp		[所属長] 印
誌名 (書名)	※学園教職員(高校以下)は 所属 長印が必要です。(↑)		
<input type="checkbox"/> 逐次刊行物(雑誌) <input type="checkbox"/> 図書 【お願い】 ① 判読容易な文字(ブロック体など)でご記入ください。 ② 誌名(書名)は省略せず、フルスペルをご記入ください。 ③ 当館に所蔵していない資料に限ります。 ④ 下記記載の注意(制限事項)をよくお読みください。			
巻号	Vol.(巻)	no.(号)	
頁	(開始頁)	p. ~ (終了頁)	p.
発行年	年 ( 月 )		
著者			
論題	<お申し込みの前に> 所蔵の有無を必ずご確認ください。		
典拠	ISSN・ISBN:  NCID:		
資料添付: 有・無			

図書館における文献複写の制限事項 (著作権法第31条)

① 複写範囲: 著作物の全体ではなく一部分(半分を超えない程度)であること。  
 : 定期刊行物に掲載された各論文その他の記事は全部であるが、刊行後相当の期間(次号の刊行まで、あるいは刊行後3カ月)を経たものであること。

② 複写部数: 一人について一部のみであること。

③ 複写目的: 利用者の調査研究のためであること。

④ 禁止事項: 有償無償を問わず、再複写したり頒布したりしないこと。

「大学図書館における文献複写に関する実務要項」(国公私立大学図書館協力委員会)による

# a. インターネット上にある資料情報からの例

7 CiNii



**⑥ Indocyanine green 排泄異常を伴った肝細胞癌の1手術例**  
**A Surgical Case of Hepatocellular Carcinoma Associated with Constitutional Indocyanine Green Excretory Defect**

**⑤ 金 祐誠**  
 Kin Yukihiro  
 大塚市立病院外科  
 Department of Surgery, Ogaki Municipal Hospital

**山口 克弘**  
 Yamaguchi Akihiro  
 大塚市立病院外科  
 Department of Surgery, Ogaki Municipal Hospital

**伊谷 正樹**  
 Inogai Masatoshi  
 大塚市立病院外科  
 Department of Surgery, Ogaki Municipal Hospital

**堀 浩志**  
 Hori Akihiro  
 大塚市立病院外科  
 Department of Surgery, Ogaki Municipal Hospital

検索文庫: 20件 | 引用文庫: 2件

この論文にアクセスする

**CiNii 論文PDF**  
 オープンアクセス

この論文をさがす

Web | 画像Web | CiNii Books | Link | 本学所蔵を探す(OPAC)

抄録

Indocyaninegreen (ICG) 試験において停滯率が70%と異常高値を示す肝細胞癌症例を報告した。他の血液化学検査に異常はなく、いわゆる ICG 排泄異常症と診断した。術前肝機能評価のために、胆管鏡による観察および非腫瘍部の肝生検を行い、慢性活動性肝炎の所見を認めた。次にカラードップラー超音波検査を行い、肝内血流に異常がないことを確認した。最終的には術中、肝臓腫瘍下に動脈血中プロトヘリンを測定することにより、安全に肝切除術を施行した。ICG 排泄異常症における詳細診断法の決定は困難であるので、今後症例の集積とともに、新たな肝予備能検査法の確立が必要であろう。

A surgical case of hepatocellular carcinoma associated with marked retention on the ICG test (retention rate at 15min, 70%) is reported. Since laboratory data except for the ICG test were normal, the patient was diagnosed with constitutional ICG excretory defect. To estimate preoperative liver function, we performed the further examinations. One was laparoscopic observation of the liver with subsequent non-tumorous liver biopsy, which showed chronic active hepatitis. The other was intrahepatic blood flow assessment using color Doppler ultrasound, which demonstrated normal flow patterns. During surgery, we measured the arterial blood ketone body ratio under hemihepatic vascular occlusion, and judging from the results of these examinations, left hepatic lobectomy was done followed without any postoperative trouble. Since to decide extent of hepatectomy is difficult in the case the ICG excretory defect, more experience with this disorder and new techniques for evaluating liver functional reserve might be necessary.

※CiNiiに論文本文がある場合は、

**CiNii PDF - オープンアクセス**

**CiNii PDF - 定額アクセス可能**、**機関リポジトリ**



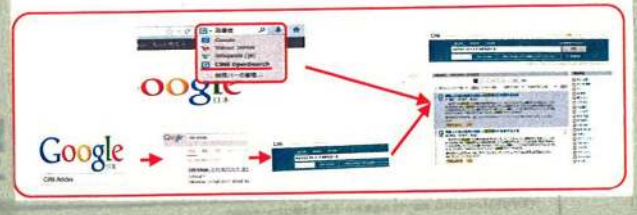
がある場合、これらのアイコンをクリックすると、学協会刊行物、研究紀要機関、リポジトリの論文本文が表示されます。

※上記で出ない場合は、**本学所蔵を探す(OPAC)**

もありますので、このリンクをクリックして学内の所蔵をチェックして下さい。

※引用元の文献には参考文献、引用文献のデータがすべて出ていますので、こちらからも検索できます。

※Google などのブラウザ検索バーでCiNiiのトップページを介さず直接論文検索を行うこともできます。



収録刊行物

- ① 日本消化器外科学会雑誌 (巻1号)
- ② 日本消化器外科学会雑誌 (巻1号)
- ③ 日本消化器外科学会雑誌 (巻1号)
- ④ 日本消化器外科学会雑誌 (巻1号)

参考文献: 20件中 1-20件 を表示

**<no title>**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 1992  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**Indocyanine Greenによる肝機能検査とCt-その検定値について**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 1992  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**ICGとBSPの排泄に関する有酸素-ICG試験異常55例検査結果の2症例を中心として**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 1973  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**肝臓腫瘍に見られたICG試験異常停滯率(肝臓後ICG排泄異常症)**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 1975  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**Doppler analysis of hepatic blood flow predicts liver dysfunction after major hepatectomy**  
 雑誌 J Surg 1984  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**肝予備能からみた肝切除術の問題点**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 1975  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**Estimation of hepatic blood flow in branches of hepatic vessels utilizing a noninvasive, duplex Doppler method**  
 雑誌 J Clin Pharmacol 1990  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

参考文献: 2件中 1-2件 を表示

**⑦ 体質性ICG排泄異常を伴った肝門静脈癌の1手術例**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 2007  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**アラジール症候群と診断され長期経過観察中の患者に発生した肝細胞癌の1例**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 2011  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**アラジール症候群と診断され長期経過観察中の患者に発生した肝細胞癌の1例**  
**Development of Hepatocellular Carcinoma in an Adult Patient with Alagille Syndrome**

**増田 延一**  
 Masuda Yuichi  
 徳州大学医学部付属病院消化器外科  
 Department of Surgery Shinshu University School of Medicine

**三輪 文郎**  
 Miwa Shiro  
 徳州大学医学部付属病院消化器外科  
 Department of Surgery Shinshu University School of Medicine

**名取 圭子**  
 Natori Keiko  
 徳州大学医学部付属病院消化器外科  
 Department of Surgery Shinshu University School of Medicine

**宮川 雄輔**  
 Miyagawa Yusuke  
 徳州大学医学部付属病院消化器外科

**横井 謙天**  
 Yokoi Kenma  
 徳州大学医学部付属病院消化器外科

キーワード: alagille syndrome

**引用元の文献**

- ① ⑥の論題(タイトル)の資料の収録雑誌
- ② Vol.(巻)とカッコ内は no.(号)
- ③ ページ
- ④ 発行年月日
- ⑤ 著者(複数いる場合は、3人まで記入して下さい。)
- ⑥ 論題(タイトル)
- ⑦ 典拠・資料の情報源(この例の場合、“CiNii”と記入します。)

収録刊行物

① 日本消化器外科学会雑誌 (巻1号)

参考文献: 19件中 1-19件 を表示

**Symptomatic paucity of interlobular bile ducts**  
 雑誌 J Gastroenterol 1995  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**<no title>**  
 雑誌 J Gastroenterol 2000  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**Mutations in the human Jagged 1 gene**  
 雑誌 Hum Genet 1999  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

参考文献: 1件中 1-1件 を表示

**胃不全にて透析導入となったAlagille症候群の1例**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 2011  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**Indocyanine green 排泄異常を伴った肝細胞癌の1手術例**  
 雑誌 消化器外科学会雑誌 2007  
 本学所蔵あり(OPAC) | 論文全文表示

**読みたい文献**



症例報告

アラジール症候群と診断され長期経過観察中の患者に発生した  
肝細胞癌の1例

信州大学医学部附属病院消化器外科, 同 消化器内科\*

増田 雄一 三輪 史郎 名取 恵子 宮川 雄輔  
横井 謙太 鈴木 史恭 横山 隆秀 小林 聡  
宮川 眞一 田中 榮司\*

アラジール症候群 (Alagille syndrome ; 以下, AGS) は常染色体優性遺伝の疾患で, 特異な顔貌, 心血管異常, 組織学的には肝内胆管の消失・低形成などが特徴とされる。患者は49歳の男性で, 10歳時に当院にて開腹肝生検を施行され, 肝内胆管消失を認め AGS と診断されて以降, 近医にて治療経過観察されていた。49歳時に腹部超音波検査にて肝右葉に巨大腫瘤を指摘され, 検査目的に当科へ紹介された。精査にて肝腫瘍は肝細胞癌と診断され, 肝切除術が施行された。術後経過は良好で術後第19病日に退院した。切除肝の肉眼検査所見上, 腫瘍の最大径は12.5cmで, 部分的に壊死を認めた。病理組織学的検査上, 腫瘍は中分化型肝細胞癌と診断され, 背景肝に胆管消失はなく, 慢性肝炎あるいは肝硬変の所見も認められなかった。AGSの長期経過観察症例, 肝硬変非合併症例の肝細胞癌発生・切除の報告はまれであり, 文献的考察を加えて報告する。

はじめに

アラジール症候群 (Alagille syndrome ; 以下, AGS) は7万人に1人の割合で出生する常染色体優性遺伝の疾患であり, 肝内胆管の消失または低形成, 彫りの深い顔貌などの特徴を有する<sup>1)~4)</sup>。症状は無症候性から多くの症候を持つものまで幅があるとされている<sup>5)</sup>。成人期まで生存する症例の中には胆汁うっ滞により肝硬変に進行するものもあるが, 長期合併症としては脳・心の血管障害が多く, 肝細胞癌の発生は比較的多い<sup>6)7)</sup>。今回, 我々は10歳時に肝生検を施行されアラジール症

植術を施行)。

現病歴: 生後3か月頃より黄疸を繰り返し, 10歳時に当院消化器内科に精査目的に入院となった。上腹部正中切開にて肝生検(採取部位不詳)を

文 献

- 1) Alagille D, Estrada A, Hadchouel M et al : Syndromic paucity of interlobular bile ducts (Alagille syndrome or arteriohepatic dysplasia) : review of 80 cases. J Pediatr 110 : 195-200, 1987
- 2) Roderick NMM, Alastair DB, Bernard CP et al : Pathology of the liver. Fourth edition. Churchill Livingstone, London, 2002, p121-123
- 3) Oda T, Elkahoul AG, Pike BL et al : Mutations in the human Jagged 1 gene are responsible for Alagille syndrome. Nat Genet 16 : 235-242, 1997

- 17) Alagille D, Estrada A, Hadchouel M et al : Syndromic paucity of interlobular bile ducts : review of 80 cases. J Pediatr 110 : 195-200, 1987
- 18) Fujisawa T, Kage M, Ushijima K et al : Alagille syndrome: a spontaneous appearance of the bile ducts. Acta Pediatr Jpn 36 : 100-104, 1995
- 19) ⑤ 金 祐輔, 山口晃弘, 磯谷正敏ほか: Indocyanine green 排泄異常症を伴った肝細胞癌の1手術例. 日消外会誌 28 : 62-66, 1995

① ② ③ ④

① ⑥の論題(タイトル)の資料の収録雑誌。

ここに記載されている誌名は略称なので, 正式名称を記載して下さい。

② Vol.(巻)のみ記載されています。

③ ページ

④ 発行年のみ記載されています。

⑤ 著者(複数いる場合は, 3人まで記入して下さい。)

⑥ 論題(タイトル)

⑦ 典拠・資料の情報源(この例の場合, ⑦とその下の論題タイトルの参考文献であることを示します。また, 雑誌名は略称なので正式名称を記載して下さい。)

長  
肝移  
科

## 文献複写申込依頼書

受付No. \_\_\_\_\_

桐蔭横浜大学 大学情報センター長 殿

下記の通り申込みます。この申込みによる著作権に関する一切の責任は申込者が負います。

		受付日	年 月 日
申込者 氏名	桐蔭 太郎 所 属 ○○○○学部	資格	教授・准教授・講師 助教・助手・( )
email アドレス	○○○○@toin.ac.jp	[所属長] 印	
誌名 (書名)	日本消化器外科学会雑誌 ----- ----- <input checked="" type="checkbox"/> 逐次刊行物 (雑誌) <input type="checkbox"/> 図書	※学園教職員(高校以下)は 所属 長印が必要です。(↑)  <b>【お願い】</b> ① 判読容易な文字(ブロック体な ど)でご記入ください。 ② 誌名(書名)は省略せず、フルス ペルをご記入ください。 ③ 当館に所蔵していない資料に限 ります。 ④ 下記記載の注意(制限事項)を よくお読みください。	
巻号	Vol.(巻) 28                      no.(号) 2		
頁	(開始頁) 62                      p. ~ (終了頁) 66                      p.		
発行年	1995年 (                      1月) -----		
著者	金 祐鎬、山口 晃弘 他 -----		
論題	Indocyanine green 排泄異常症を伴った肝細胞癌の1 手術例 ----- -----	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           &lt;&lt;お申し込みの前に&gt;&gt;  <u>所蔵の有無を必ずご確認ください</u>  <u>さい。</u> </div> ISSN・ISBN:  NCID:	
典拠	論文の参考文献 ----- 資料添付: (有) ・ 無		

## 図書館における文献複写の制限事項(著作権法第31条)

- ① 複写範囲: 著作物の全体ではなく一部分(半分を超えない程度)であること。  
: 定期刊行物に掲載された各論文その他の記事は全部であるが、刊行後相当の期間(次号の刊行まで、あるいは刊行後3カ月)を経たものであること。
- ② 複写部数: 一人について一部のみであること。
- ③ 複写目的: 利用者の調査研究のためであること。
- ④ 禁止事項: 有償無償を問わず、再複写したり頒布したりしないこと。

「大学図書館における文献複写に関する実務要項」(国公立大学図書館協力委員会)による